

図書館の空間利用にみる多機能化に関する基礎的研究

ーグッドデザイン賞を受賞した図書館を対象としてー

A Basic Study on the Becoming Multifunctional Seen in Spatial Use in a Library
Case Study on Libraries Nominated for Good Design Award

○桃井悠¹, 天野光一², 西山孝樹²

*Haruka Momoi¹, Koichi Amano², Takaki Nishiyama²

This study was conducted in a library that won the “Good Design Award”. The purpose of this study was to obtain basic information about the multifunctional use of space by focusing on functions other than book lending and self-study, which are the essential functions of a library. As a result, it was clarified that various ideas were made after using the space inside and outside the library.

1. はじめに

わが国の公共施設は、複合的かつ多機能化されており、異なった目的を持つ施設が同居して運営されていることが多い状況にあるといえる。

2. 研究方法

そこで本稿では、公共施設の中でもデザイン性が高く評価された図書館に着目し、どのような空間利用がされているか、その基礎情報を得ることを目的とした。

グッドデザイン賞を受賞した5施設の図書館を対象にホームページや「図書館だより」等から、イベント等を抜き出した (Table. 1)。そして、実施されたイベントと空間利用の関係から、それらの分類を試みた。

3. 研究結果

研究対象としたグッドデザイン賞において、過去22年間で受賞した図書館は20施設であった。本稿では、地域との連携に特化していた5施設を抽出したところ、23件イベントを抽出することができた (Table. 2)。

4. 図書館における空間利用の分類

(1) 新たな場所を活用し、これまでの図書館では見られなかった機能やイベント

既存の図書館に存在していたものの、積極的に利用されていなかった空間、これまでの図書館に付加されていなかった機能や空間が活用された事例が該当した。

a) ロビー、ピロティ、エントランス等の通路からすぐにアクセスできる場所【Table. 2 (1) a)】

図書館と隣接する施設を繋ぐ空間を活用した事例で、ロビーの近傍や廊下などを活用した事例が該当した。

例えば、大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホールでは、おはなし会「おはなしパレード」が定期的に行われていた。毎回異なる場所で実施し、図書館の廊下や読書スペースで行われるとみられる。子供たちだけではなく、大人の参加も可能であることがホームページに付されており、偶然その場を訪れた人の参加も期待される表記もあった。

せんだいメディアテークでは「てつがくカフェ」という対話形式のイベントが実施されていた。主として、会議室やスタジオシアター前の廊下が活用され、天板が黒板として活用できる机の活用もみられた。

b) 屋外テラス、中庭、オープンスペース等の開放感が感じられる場所【Table. 2 (1) b)】

図書館という空間に捉われず、先の施設に付随する屋外空間などが活用された事例が該当した。

赤穂市立図書館には屋外テラスが設けられており、その空間を利用した「komorebi〜癒しの時間〜」というイベントが行われていた。本プログラムは、絵本の読

Table. 1 本稿で対象とした図書館の概要

No	図書館名	所在地	竣工年	受賞年
1	大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホール	岩手県大船渡市	2009(平成21)年	2009(平成21)年
2	秋田市立新屋図書館	秋田県秋田市	1998(平成10)年	1998(平成10)年
3	せんだいメディアテーク	宮城県仙台市	2000(平成12)年	2001(平成13)年
4	茅野市民館	長野県茅野市	2005(平成17)年	2007(平成19)年
5	赤穂市立図書館	兵庫県赤穂市	2001(平成13)年	2002(平成14)年

Table. 2 グッドデザイン賞を受賞した図書館5施設の空間利用に着目した分類結果

大項目	小項目	合計 (件数)		
(1) 新たな場所を活用し、これまでの図書館では見られなかった機能やイベント	a) ロビー、ピロティ、エントランス等の通路からすぐにアクセスできる場所	3	7	28
	b) 屋外テラス、中庭、オープンスペース等の開放感が感じられる場所	1		
	c) 講演会等の地域交流が行われるギャラリー	3		
(2) 図書館の機能を超えて、隣接している施設も利用したイベント	a) 歴史的建築物内のアトリエ	3	6	28
	b) コンサートホール、多目的ホール等の活用	3		
(3) 既存施設や機能を活用したイベント	a) 閲覧スペースの利用 (一般開架書庫、閲覧、児童室等)	3	15	28
	b) 読書以外の目的で使用する場所の利用 (会議室、研修室、集会室、視聴覚室)	13		

1 : 日大理工・学部・まち, 2 : 日大理工・教員・まち

み聞かせとアコースティックギター並びにオカリナ演奏が交互に実施され、それと並行してイベント時間中は継続してキャンドル・クリスマスカード製作のワークショップが開催された。参加者は読み聞かせやバックグラウンドミュージックとして生演奏を聴きながら、ワークショップに参加できる。さらに、実施場所は「屋外読書テラス」であり、心地よい風に吹かれながら参加できるイベントであった。先の演奏による音色が館内に溢れ、来館者にも癒しを与えていたと考えられる。

また、「屋外読書テラス」そのものも、館内に蔵書された書籍を屋外へ持ち出せる特徴的な空間といえる。

c) 講演会等の地域交流が行われるギャラリー

【Table. 2 (1) c)】

地域住民が取り組んだ作品の展示や住民間の交流が行える空間を活用した事例が該当した。

赤穂市立図書館ではギャラリースペースがあり、「図書館朗読グループ」による朗読会が行われていた。そのギャラリー前面は、ガラス張りであることから屋外から内部を確認することが可能である。外からギャラリーの展示物や朗読している様子を眺めたり、気軽にイベントに立ち寄れたりすることが可能であった。そのギャラリー前面は、1階部分が自由に通り抜けができる、いわゆるピロティとなっており、施設内に入場せずとも展示作品を楽しめるようになっていた。

(2) 図書館の機能を超えて、

隣接している施設も利用したイベント

一施設内で複数の公共施設が入居、共有している場合に、その隣接する諸施設を利用したものが該当した。

a) 歴史的建築物内のアトリエ【Table. 2 (2) a)】

秋田市立新屋図書館には、隣接して8棟の旧食糧倉庫があり、そのうちの1棟が図書館の倉庫として使用されていた。なお、残る7棟は改修を経て秋田公立美術大学の実習棟、工芸体験棟、地域交流棟等として活用されていた。これら倉庫群は、2002(平成14)年に登録有形文化財に登録された歴史的価値を有する建築物である。その内部には、アトリエが設けられており、そこでは「おはなしおばさん藤田浩子さんのおはなし会」が実施されていた。藤田氏は幼児教育の講師で、「赤ちゃんからのおはなし会」と「ヒトは人に育てられて人になる」をテーマにした2講演が実施された。

b) コンサートホール、多目的ホール等の活用

【Table. 2 (2) b)】

主として、隣接するホールを利用したイベントであった。例えば、大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホールでは「あべ弘士先生～動物のおはなしとお

絵かき～」が行われた。絵本作家であり、旭山動物園の飼育員が動物の描き方を教えるワークショップを隣接するリアスホールのマルチスペースで開催された。このように、図書館とホールを複合的に活用し、作家との交流を図ることが可能な事例も存在した。

秋田市立新屋図書館には、(2) a)でも述べた旧食糧倉庫のうち、秋田公立美術大学が管理する棟の内部には、アトリエ工房や小規模な多目的ホールがある。そこでは「チェロの音にのせて～みえないものがみえてくる～」では、群馬交響楽団の首席奏者である柳田耕治氏のチェロの演奏と秋田市内の読み聞かせグループ「おはなしのしずく」の朗読を楽しむ公演であった。

(3) 既存施設や機能を活用したイベント

これまでの図書館で実施されてきた空間や機能を活用した従来通りのイベントが行われていた。

a) 閲覧スペースの利用(開架書庫、閲覧スペース、児童室等)【Table. 2 (3) a)】

図書館としての基礎となる空間が利用された事例で、廊下やロビーの一角で展示等が行われていた。茅野市民館・美術館図書室では特集コーナーが設けられ、テーマに沿った書籍を紹介していた。

b) 読書以外で使用する館内スペースの利用(会議室、研修室、視聴覚室等)【Table. 2 (3) b)】

これまでの図書館に付随していたと考えられる視聴覚室や会議室・研修室を活用した事例である。赤穂市立図書館の「ストーリーテリング講座」は、年に5回集会室で開催され、参加者が講師から、昔話や創作物語などを覚えて語り聞かせる“ストーリーテリング(おはなし・素語り)”の手法を学ぶものであった。

さらに、秋田市立新屋図書館では「みんなで作るアート講座」が研修室で行われ、隣接する秋田国立美術大学の教員による講演が実施されていた。

5. まとめ

研究対象とした図書館では、既存施設やそれらに付随した機能を活用したイベント等が多い状況にあった。そうはいうものの、図書館内外の空間が利され、施設に立ち寄った地域住民等が気軽に立ち寄ることができる種々の工夫が行われていることが明らかとなった。

参考文献

- [1] 大船渡市民文化会館・市立図書館/リアスホールページ：
<https://www.city.ofunato.iwate.jp/>, 2020年10月22日閲覧。
- [2] 秋田市立新屋図書館ページ：
<https://www.city.akita.lg.jp/>, 2020年10月22日閲覧。
- [3] せんだいメディアテークホームページ：
<https://www.smt.jp/>, 2020年10月22日閲覧。
- [4] 茅野市民館ホームページ図書室ページ：
<http://www.chinoshiminkan.jp/>, 2020年10月22日閲覧。
- [5] 赤穂市立図書館ホームページ：
<http://www.ako-city-lib.com/>, 2020年10月22日閲覧。